

平成30年度第4回社会教育委員の会議

平成30年8月29日(水)

午後6時00分開会

開催日時	平成30年8月29日	開会18時00分 閉会19時40分	
場 所	前原暫定集会施設B会議室		
出席委員	議 長 小山田佳代 副 議 長 原田 隆司 委 員 所 夏目 委 員 石原 芳 委 員 首藤 由憲	委 員 石田 静子 委 員 城 瑞枝 委 員 長坂 寛 委 員 柴田彩千子 委 員 福井 高雄	
説明のため出席した者の職氏名	生涯学習部長 藤本 裕 生涯学習課長 関 次郎 生涯学習部オリンピック・パラリンピック兼スポーツ振興担当課長 内田 雄介	図書館長 菊池 幸子 公民館長 西村 直邦	
事務局	生涯学習係長 小堀久美子		
傍聴者人数	0名		

日程	議 題	
第1	協 議 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 会議録の承認について (2) 平成30年度視察研修について（報告及び今後の検討事項） (3) 第3次小金井市生涯学習推進計画の評価について（平成29年度分） (4) 意見・提案シートについて (5) その他
第2	報 告 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会について (2) 平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3ブロック研修会の案内について (3) 小金井市立図書館運営方針（改訂版）（案）について (4) その他

小山田議長 それでは、皆様、お時間になりましたので、始めさせていただきますと思います。

 それでは、改めまして、皆様、こんばんは。

 それでは、ただいまより、平成30年度第4回社会教育委員の会議を始めたいと思います。

 まず、配付資料につきまして、事務局のほうからご説明をお願いします。

小堀生涯学習係長 では、配付資料を確認します。

 社会教育委員の会議会議録、平成30年度（第2回、第3回分）。平成30年度社会教育委員の会議「視察研修」報告書。第3次小金井市生涯学習推進計画の評価について（平成29年度分）。こちらは郵送で送らせていただいて、もし持ってこられなかった方がいらっしゃれば、声をかけてください。続いて、意見・提案シート。平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3ブロック研修会の案内について（通知）。小金井市立図書館運営方針（改訂版）（案）。委員の方のみの配付として、第49回関東甲信越社会教育研究大会長野大会開催要項。参加される委員の方には事前に送付しております。図書館だより第47号。月刊こうみんかん484番、485番。体協だより61号。

 以上となります。

小山田議長 ありがとうございます。

 不足のものがある方は事務局までお知らせください。

 それでは、議題のほうに移りたいと思います。

 まず、1番目は会議録の承認についてということで、第2回の会議の議事録と第3回の議事録がございまして。先にメールで皆様に送られていると思うんですけども、何かご意見等ある方いらっしゃいますか。大丈夫でしょうか。

 そうしましたら、第2回の議事録と第3回の議事録はこれで承認をいただいたというところで。お願いします。ありがとうございます。

 続きまして、平成30年度の視察研修についてということで、ちょっと前のことですが、7月13日に行きました国分寺市の本多公民館と八王子の松木中学校の視察研修についてですが、報告のほうは福井さんのほうが報告書として上げていただいておりますが、皆さんそれぞれ行かれた方はご意見等、感想等を伺いたいと思います。

 まず、福井さんの報告書からということで、皆さんも思い出していただきつつということで、福井さんのほうからまず、こちらの報告書に基づい

てご説明よろしいですか。

福井委員

では、福井です。視察研修の報告をいたします。

視察研修会は、7月13日、国分寺市と八王子市に行きました。国分寺市は本多公民館。本多公民館は職員2名の方が講師担当ということで、対応していただいて、交流会をしたということです。内容的には、本多公民館の運営ということで、国分寺市は公民館が5館ありまして、公民館の広報に関して小金井市が参考になるような内容であったということが1つ目。

国分寺市の公民館だよりは、行った方はわかるんですけども、市報のページと裏表の関係で、公民館だよりが一体化したページになっているということで、市報を見ると公民館だよりが読めるし、公民館だよりを読む方は市報も読めるというのが非常に好感を持てたということと、あと、この市報は全世帯に配っているということで、公民館の事業に関しましては国分寺市民も一とお理解できるのではないかとということで、小金井市は、当然公民館だよりというのは発行しているんですけども、公民館中心の公共施設のみの配布ということで、今後も検討する課題があると思います。

あと、メインの地域会議に関しましては、公民館が主体になって平成14年度から組織的に運営されているんですけども、基本的には小金井市は縦割り行政、公民館は公民館独自で異世代交流、また、地域事業の勉強会を含めた企画等の運営をされているんですけども、国分寺市は公民館が主体になっていますけれども、消防署、警察署、町内会、あと、民生委員、そのほかの地域の方が横的なつながりで異世代交流、地元事業を展開しているということで、この辺の取り組みに関しても参考になるということだと思います。

2番目の八王子市は、松木中学校に行きました。そこで、中学校長と学校運営協議会会長に対応していただいて勉強会をしたということです。

内容的には、ここに書いていますけれども、学校運営協議会、人脈のつながりのボランティアによる、地域が総がかりで学校を支援しているということで、大きな3つの事業としては、各種検定、地域祭り、学習教室などを主催している。一番注目すべきことは、こちらの松木地域はニュータウンであって、町会もなく、子供会もないということで、学校から地域をつくるということで、常識的には逆に地域の住民が学校をサポートするという事なんですけれども、学校から地域をつくっていこうということで、学校教育及び社会教育が一体化して協働で地域の取り組みをしているということが特徴であったということで、国分寺市及び八王子市も小金井市が見習う点が多々あったというのが感想と報告です。

以上です。

小山田議長

ありがとうございます。

では、行った方、思い出しながら、今の福井さんのお話でちょうど思い出していただいたかと思しますので、では、順番にご感想ということで、城さんいかがですか。ご意見とかありましたらお願いします。

城委員

国分寺市のほうは市の広報と一緒にしているということで、ああ、そうなんだという感じで、ここまで皆さん読むのかというのをちょっと思ったんですけれども、配れば全世帯に配っていらっしゃるということなので、それはすごいと思いました。

それから、八王子市の松木中学校の件なんですけれども、ここまで学校運営のほう为学校のほうに入るのか。学校の先生の評価もなさるとおっしゃっていたので、ここまで、父兄というか、地域の方が入り込むというのは、すごい反面、ちょっと怖いかというのも感じました。

その中で、漢字検定や、それから、部活のときの職員会議があるときは父兄が担当して生徒のほうを見守るという形もするということなので、そこはすごいと思ったんですけれども、すごく入り過ぎているので、すごくびっくりしました。そこが一番大きかったです。

小山田議長

では、順次いいですか、石原さん。

石原委員

国分寺市のほうは小金井市と違って、公民館1つの建物でいろいろなものができるようなものが入っていて、小金井市とは全く違ったような使い方ができるんだというのを感じたのと、予約システムが確立されているということで、ネット予約ができたりとかというのができることによって、ネット環境が整っている方とかには使いやすいような環境は整えられているのかというのにはすごく感じました。

また、いろいろな方々が交流できる場になっているんだというのもすごく感じたので、いい場になっているのではないかというふうに感じたので、小金井市もそういう形でなっていたら、もっと使いやすくなるかというのと、やはり年齢が高い方から下のほうに教えるということで、いろいろな刺激を受けられるのではないかというふうにすごく感じました。

八王子市の中学校のほうは、やはり場所の問題もあり、すごく広いというのと、やはり保護者との協力がすごく密にできているんだというところで、ちょうど見学させていただいた漢字検定のときも、やはり保護者の参

加率というのがすごく大きいというのと、やはりPTA室が充実しているので、いろいろな話し合いの場とかというのかなりできるのかということも大きく違うんだというのと、あと、部活までの間の学習教室とかというところに力を入れていたりというところがあるので、子どもたちとしては過ごしやすい学校生活が送れているのではないかというふうに思いました。

柴田委員

国分寺市の地域会議については、学校との連携が密にとれているということで、公民館の区域と中学校区が重複しているということもあって、学校の先生方も入って、公民館も入って、そして、保護司の方とか民生児童委員とか、そういった地域の関連の方も入ってというところで、例えば災害があったときとか、それから、おひとり暮らしの高齢者の方の身に何かあったときに備えているのかというふうに思いました。

例えば消防士の方と保健師の方が一緒に高齢者の世帯を回ることによって実現可能となるような取り組みがあったりというようなところにそのようなことを感じました。

それから、学校とのつながりというところでは、国分寺市は1校しかコミュニティ・スクールはありませんが、学校運営協議会の委員さんに館長さんが入っていて、学校側を支援するというような体制もつくられているし、逆に、学校側が、例えば中学生が公民館で行われる高齢者のためのパソコン教室の講師、サポーターを務めるなど、ウィン・ウインの関係性ができ上がっていて、交流が密に図られるというような状況がつけられているというところはいい仕組みができているというふうに考えました。

ただ、一方で、住民の方たちは全てボランティアで参加していますので、それは動員されるという形ではなくて、住民の方がほんとうに主体的にやりたいと思ってできるような状況をつくるということも大きな課題の1つであろうというふうに思います。

それから、八王子市のコミュニティ・スクールに関しましては、ニュータウンというところですので、一から地域や学校を核にしてつくるというような取り組みで、地域にお祭りがなかった地域ですので、例えば地域祭りをコミュニティ・スクールとして開催したり、それから、子どもの学習支援の教室を開いたりというようなところはここの特徴なのかというふうに思いました。

ただ、特に松木中学校の場合は、八王子市の中でも保護者や元保護者という方たちが特に活発に活動しているところで、全てがああではないので、例えば教員との各運協メンバーとの面接などはほかはやっていませんので、

全てがやっているというふうには受け取らないほうがいいのかというふう
に思いました。

ただ、教員を評価するための学運協の委員による面談、面接というもの
ではなくて、教員のちょっとした不満、管理職に言えないようなところを
フォローアップするような形で、そういうスタンスで面談をしているとい
うところは、これからの教師の働き方改革ということを考えていったり、
子どものきめ細やかな教育ということを考えていく上では有効なのかも
しれないというふうに感じました。

以上です。

首藤委員

大体皆さんが言われたので、最後になってしまうと、あまり話すことが
ないんですが、国分寺市の視察について思ったのは、先ほど先生もおっし
やいましたけれども、公民館と学校とエリアが非常に整理されて、関係を
きちんとつくって、それぞれの公民館が役割を自覚して活動されていると
いうのが参考になりました。

それから、八王子の松木中学ですが、このとき思ったのは、やはり学校
運営協議会と一口にいても、エリアによって個性があるということを感じ
ました。多分そのエリアの特性、エリアがどうやってでき上がってきた
かという歴史、そういうものに基づいた進化、成り立ちとかが少し違うの
かもしれないというふうに思いました。八王子の場合は新しい住宅地が出
来て、そこに新しい住民が集まり、その時のニーズがテーマに成りそれを
積み重ねて形成されてきたという感じがしました。

もし小金井でそれを実践する場合は、やはり小金井の歴史とか、小金井
の町の成り立ちを含めた小金井市の特性を学校運営協議会にどう取り入れ
ていくのが重要だと感じました。

それから、細かいことですが、たまたま名簿か何かあったと思うんです
けれども、運営協議会のメンバーとコーディネーターというのが書いてあ
って、コーディネーターの人でも運営協議会に入っている人もいれば、コ
ーディネーター専属でやっている人もいます。これはなぜですかという質問
をしたら、やはりそれぞれの人の特性、能力、こういうものを判断してそ
ういうふうにされているということでした。そういう点について非常に細
かく人の得意な能力、そういうものを分析されて役割というのを担って活
動されているのかということに感心しました。学校運営協議会という組
織を運営する時、それをどういう人たちで構成していくのかは重要な課題
です。誰がどのような過程で人の能力を判断して組織づくりを進めて行く
のかも検討していく必要があると考えます。

以上です。

原田副議長 皆さん大体おっしゃったので、重なる部分があるかと思いますが、そもそもこの研修のテーマが、地域、学校、協働活動はどうあるべきか。その小金井スタイルを求めるということでしたので、小金井市民もその地域、地域によってスタイルが違うのではないか。我々にとってはどんなものがふさわしいのかというのを現場で見てこようということだったわけで、そういう意味では、国分寺と八王子は、今までお話に出たように、それぞれ非常に特徴的な取り組みをしていて、参考になったと思います。

当然それぞれ特徴的なので、そのまままねするということはできないんですけれども、どうしてうまくいっているのかというのをその地域の特徴から考えていくというのは非常に有効なことではないかと思いました。

聞いてみれば当たり前なんだけれども、公民館とか図書館はやはり近所で利用できなければいけないから、大概どこの町でもおそらく、小金井もそうだと思う、中学校の校区に1つずつあるんですか、図書館長、図書館の分館というのは。大体そうになっています？

菊池図書館長 大体そうです。

原田副議長 ですね。だから、そういう意味で国分寺の場合は公民館、図書館活動はかつてから盛んで、しかもその地域との連携が濃かったということで、それをうまく生かして地域会議という形でやっているということで、うまくいっているのかというふうに思いました。これは参考になるかと思いました。

ただ、お聞きしていると、公民館の負担が非常に大きいといえます。ということで、どこでも真似できるということではないのでは。

それから、八王子、これはまた皆様言われましたように、もともと地域というのがなかったので、これも多分中学校区だと思えるんですけれども。学校を核にして地域をつくる。そのために学校運営協議会をうまく活用するみたいに関心されて、なかなかうまくいってない。

ただ、ここも非常にパワフルな校長先生、それから、PTAの役員の方々など、人がいたからこそできているのかということで、どういう方にコーディネートあるいは旗振り役、進行役をやっていただくのかというのは、大変重要なことだと思います。

今後、我々はどういう議論をしていくかということ、そもそも協働活動は何のためにあるかということはずっと忘れてはいけないと思うんです。子

どもたちの学びが豊かになること。これはうっかりすると、外れてしまうんです。地域の人が一生懸命手伝って、老後の楽しみが増えたというので終わってしまったのでは意味がない。子どもたちの学びが豊かになること。結局それにつながらないといけない。

それから、先ほどもちょっとお話が出たと思う、何か無理やり市民の方に手伝っていただくのではなくて、そういう子どものために新しい学びみたいなものを何かやりたい、力になりたいという地域の住民が多分必ずいると思うので、そういう人にやっていただくこと。

それから、一方で、学校の中に子どものために今までの学校だけではできない、何か市民の力をかりてやっていきたいという先生方がいる。その両方がないとエンジンになっていかないのではないかというふうな気がしました。

あと、もう1点だけ。国分寺と八王子にない、では、我が小金井市の特徴は何かと考えたんですが、東京学芸大学で教育の支援の課程というのがありますので、あそこの、柴田先生もそうかもしれないですが、その先生方とか学生さん、大学院の方、若い先生方、こういう人たちの力をかりるというのも小金井市の特徴の1つなのかと思いました。

以上です。

小山田議長

ありがとうございます。皆様それぞれご意見いただきましてありがとうございました。

視察にいかれていない委員のお二人に資料を今、回しましたので、そちらのほうをごらんいただけたらと思います。後になってしまって申しわけないです。

国分寺市の公民館の職員の方にいろいろご説明を伺ったりしてまいりまして、地域会議ですとか、こちらに福井さんが書いてくださっているその特徴的なことを説明していただきまして、ほんとうに公民館を核として学校と地域がつながっているという事例を伺いました。

八王子のほうは、コミュニティ・スクールということで、大熊教育長も来てくださりまして、実際どのようなことでやっていらっしゃるかということ、こちらに書いてあります運営協議会の会長と校長先生が来てくださりまして、今お配りしている資料等をもとに説明を受けたということです。

私どもも社会教育委員としても何年前に杉並区と国分寺のほうの学校運営協議会とコミュニティ・スクールのほうを視察にいつてまいりまして、そのときも視察にいつて、いや、これはとても難しい、小金井でやるのは

無理かぐらいのレベルの充実したところであり、小平のほうも六小とかは行ったこともあったんですね。

そこで、どうやったら小金井らしい、小金井スタイルで何かそういった地域連携本部ということやコミュニティ・スクールというところで、小金井はまだそういった仕組みを取り入れていないので、何かできることを見つけられたらということで、社会教育委員として伺ってきましたが、今回は帰りのバスの中でも、八王子のスタイルだったら小金井でもできそうだなという感想がちらほら出ていたんですけども、今回、この視察、公民館と八王子のコミュニティ・スクールを見にいった、今、いろいろご意見を伺ったんですが、この後、社会教育委員としてどういうふうに、この間に、前回行ってよかったとか、大変そうだとか、小金井市ではできないかと終わったんですけども、3回ぐらい行っているの、皆さんのご意見とか、報告書ではないんですけども、何かちょっとまとめられたらいいのかと思ったりはしているんですが、この後、どうでしょうか。何かご意見ありましたらお願いいたします。

原田委員

研修の帰りのバスの中で、学校運営協議会を小金井でもつくるんだというふうに、教育長が言われていましたけれども、そういうお気持ちがあるのであれば、我々のほうから何かこういうところを大事にして、例えば幾つかのパターンで、こうやりなさいということではなくて、小金井スタイルとしてはこうですみたいな、簡単なA4、1枚、2枚ぐらいの方向性を示すようなこの会議としての提言ができたらいいいのかという気がちょっとしました。大変かもしれないですが。

小山田議長

いかがでしょうか。

柴田委員

八王子市も来年度で108校全部コミュニティ・スクール化しますし、立川市も学社一体という名のもとにコミュニティ・スクール化するというふうになっています。

やはりこういった時代の流れというところに小金井市も一緒に流れていくのかというようなところもありますが、やはりこの社会教育委員の会議で何度も言葉が出てきた小金井スタイルという、小金井独自のコミュニティ・スクールのあり方というところは一番大事にしていきながら進めていかなければならないところだと思います。

小金井の学校は、わりと都内の小中学校と比較すると安定しているというふうによくいわれているので、今さらコミュニティ・スクールを導入し

なくてもいいのではないかというような意見も一方でありますし、現場の学校の先生方が忙しくなるのではないかというような懸念で学校側がどう思っているのかというようなところも気になるところですが、導入する初年度は忙しくなるかもしれませんが、その仕組みをつくって乗っけてしまえば、先日、研修にいきました松木中学校のように、ある程度のところを地域の方にお任せすれば、例えば部活動とか学習支援、放課後子ども教室なども含めて、そういうところが回っていくというようなところや、学校の先生方が何か授業の中で、ゲスト講師や学校支援ボランティアを導入したいというときに、即座にそこをコーディネートして、その手続をなくすというんですか、そういうような仕組みが地域としてつくられればいいというふうに思いますので、まずは地域の人材、社会教育に熱心に取り組んでいる地域住民の方たちが学校にかかわりたいという希望を持っていらっしゃる、そういう方たちを把握するというようなところから始めるのがいいのではないかというふうに思います。

学校のほうで、例えば学運協やりなさいということで、学運協の委員を探すというのはとても大変な作業ですので、やはりこういう地域の人材探しというところを社会教育の活動としてやっていって、教育委員会のほうとタイアップしていくということと、それから、先ほど副議長がおっしゃったように、大学が近くにありますので、教育系の大学ですので、何かしらの連携ができればと思います。

でも、それは今現在も行っているところですので、それを学運協の活動に位置づけるという、新たに何かをやるというのではなくて、位置づけて仕組みを整備していくということも一方で必要なのではないかと思います。

小山田議長

では、所委員、せっかくなので、学校側というと、別に代表という意見ではなくてももちろん結構なんですけれども、今のご意見を踏まえて、感想をお願いします。

所委員

コミュニティ・スクールは私も何校か視察した経験があるんですけども、まずはコミュニティ・スクールとして指定を受けると必ずやらなければならないことというのが法的に決められていて、学校が教育の基本的な方針を説明し、それを承認するという手続をきちんとしなければならない。

それをを行うためには何回か会議を設けなければならないということがあります。当然学校は資料の用意をしてということになりますので、会議は当然のことながら今よりは増えるであろうということは予想されます。

またその方針を委員の方に承認していただかないと次に進めないという

ことがあります。ほとんどの場合、どの学校運営協議会もご意見をいた
だいて承認されるケースが多いと思うんですけども、そういった手続も
必要になってきます。

そうすると、単なる承認機関になりがちです。学校が説明したことを承
認するだけのコミュニティ・スクールになってしまう。では、学校は何の
助けを得られるのかというところが出てきますので、学校地域支援本部と
いう形で学校支援する、協議機関と両輪でやっているところが多いとい
うのが現状です。

うまくいっているケースというのは、学校地域支援本部がかなり自主的、
主体的に地域が回せる状態にあるということだと思えます。そのために
は、やはり、コーディネートをやる人材がいるかどうか、学校支援が活
性化するか、しないかの大きな分かれ目になってくると思います。

まずはこの社会教育の中でそういう方がいらっしゃるかどうかというあ
たりです。今、ほとんどの学校でボランティアを学校の教育の中に入れて
進めています。それを学校独自で見つけたコーディネーターに一部お願い
したりとか、その他は教員がやったりという形で外部人材を活用している
ケースがほとんどだと思えますけれども、それを全て地域の方でやって
いただけるというふうになれば、学校のほうは非常に助かるかと思いま
す。

ただ、そうすると、そのコーディネーターの人がすごく大変になります。
半仕事のように、ほとんどの時間を学校のために割くというぐらいの熱意
と時間とがある方がいらっしゃる地域は何とか回っているという状況かと
思います。

小山田議長

ありがとうございます。

では、今、学校の間というか、ご意見、情報提供いただきましたけれど
も、どうでしたか、何か。もしあれだったら、少し自由に意見交換いた
だければと思いますが。では、2人。お願いします。

首藤委員

先ほど所委員がおっしゃったいろいろな組織だとか、組織づくりにつ
いては、僕は素人でありよくわかっていないんですが、組織をどう
いう人材でつくるという前に、何のためにコミュニティ・スクールをつ
くるのかを明確にしていく必要があると思います。青臭い言い方を
すると、大義みないな、もっと言うとテーマです。小金井の中で
コミュニティ・スクールをつくる時に何をテーマにしてやっていく
のかということをしこの委員の中でまとめていくことが出来れば
良いと思います。

実際にコミュニティスクールを作るとなると、教育委員会とか、もう少し実務レベルの詳しいところでいろいろなことが始まることとなりますが、作る目的・テーマがまずしっかり固まっている事が重要だと思います。例えば地域活性化と学校との関係、市の歴史だとか、市のイベントだとかをどのようなテーマを持ちそれをすることが何を生み出していくのかを明確にして進めて行くことが重要だと思います。

結局テーマを決めることが先で、順序としてはこのそのテーマを達成できる人材を集めて行くこととなります。人材確保や運営の方は実務に近いところで考えて頂くことに成りますが、この委員会では大きなテーマについて議論を進め、それを提言していくという役割を担ってみてはどうかと思います。

以上です。

小山田議長 ありがとうございます。

柴田委員 首藤委員もおっしゃったように、何のためにやるのかというのは、やはり地域の子どもは地域で育てるという考え方のもとにこのコミュニティ・スクールをやるんだと思います。時代の流れでやらなければならないからというのは、やはりよくないので、地域の子どもを育てるのに積極的にかわりたいという市民の方にこの学校運営の一部を担っていただくというスタイルでやっていくということを前提として、先ほど所委員のほうからお話があったように、学校支援地域本部、今の学校支援協働本部のところから小金井はつくって行って、協働本部と学校が連携して、その中からまた学校運営協議会がつくられていくというボトムアップ型につくっていくというのが現実的なところなのではないのかというふうに考えます。

今度の学習指導要領のテーマの1つも社会に開かれた教育課程というふうなものがありますので、そういった側面からも学校が積極的に地域社会に教育課程を開いていただいて、そこに地域社会の心ある方たちが入っていくというような仕組みをつくるお手伝いが社会教育委員の会議からできればいいというふうに思います。

小山田議長 ありがとうございます。

石原委員はPTAということで、PTA側からご感想とか、あとは、放課後のほうの委員もされているので。

石原委員 PTA側としては、自身の学校としては、やはりいろいろなボランティ

アが必要であれば、保護者としてお手伝いしますということで、去年の会長をしていたときはいろいろと立ち上げたりして、朝遊びのボランティアを立ち上げて、ちょっと人を集めたりというのをしているんですけども、やはりボランティアを集めるとなると、無理やり強制的にというのはちょっと難しいので、やはり人脈が必要になり、自分の知り合いに声をかけて、そこから広がっていくというほうが多いので、ボランティアとなると無償でやっていただくという形なので、無理にお願いできないというところが一番あるので、そういうところを考えながら、ただ、PTAをやっている中で、学校でやっている朝の読み聞かせボランティアというものに地域の方がぜひ参加したいという声も挙がってはいるんですけども、なかなか学校側としてどうやって受け入れたらいいのかということと、PTAとしてどこまでかかわっていいのかということの線引きがやはりわからなくて、では、学校側にお願いしますといっても、学校側もなかなかそこから先に踏み出せないというところもあったりするので。

あと、学校側でやりたいということをやってみたものの、やはり強制的にやらされている感があるので、ボランティアやめましょうというふうになったりというのがあるので、始める前に何を目的にして、どういうふうにしていくというのは、やはり一番最初に話し合って、では、それに賛同する方がどれくらいいるのかということをもまず前提でやっていかないと、まず人が集まらなくて継続が難しいと思います。

また、放課後の見守りでも、何か問題があって、学校との調整が必要となった場合に、どういうふうに対応していくのかということまで考えていかないと、やはりそのコーディネーターさんだけが責められる。私はもうできませんと言われたときに、では、誰がフォローしていくのかということもすごく難しいということと、では、それをどこまで社会教育委員のほうで考えていかなければいけないのかと。市ばかりに言っていってもだめだし、こちらばかりで言っているだけでもだめだし、では、コーディネーターさん側がどう思っているのかということも考えながら運営していかないと、多分、やってみたけれども、続かないということが多くなってくるのではないかと思います。

今、地域の方の中には、やはりぜひ学校のほうのボランティアに参加したいという声も、自分の学校の周囲だけでも結構聞かれていますので、そういったところをどう取り込んでいくのかということもうまく話し合いの中で解決していくようにしていければいいのかというふうに思います。

以上です。

小山田議長

ありがとうございます。

いろいろなご意見ありがとうございます。ほかの議題もありますので、これは継続審議というか、継続で今日、また小金井スタイルということで、何のテーマがいいだろうとか、社会教育委員として何ができるかというような課題があらわれましたので、それについてまた次の回でももう少しご意見をいただきつつ、最後に何かまとめられたいいのかと思います。

また、小金井の学校はどういうふうに思っているかというのでも1回聞いてみたいというふうに前もご意見いただきましたので、今年度かけてもいいのかもしれないと思っております、どういうふうに社会教育委員としてやっていくのがよいかというのを、また宿題的に皆さん考えていただければと思います。

また小委員会とかも1回開催させていただいて、その中でもう少しまとめてもう一度皆さんに課題とかテーマを話し合ってもらいたいというのを整理できたらと思いますので、継続審議ということでお願いしてよろしいでしょうか。お願いいたします。

では、報告のほうは終了させていただきまして、次の、3番、第3次小金井市生涯学習推進計画の評価について(平成29年度分)ということで、郵送で皆さんに送られてきた資料をお持ちでございましょうか。

では、資料のご説明をお願いします。

小堀生涯学習係長 以前にお配りしたことがあります第3次小金井市生涯学習推進計画、こちらは、平成28年度から平成32年度までの5年間の計画の期間となっております、昨年度初めてこの計画の進捗状況調査を実施させていただいて、そのときにどのような形で調査をするかということをお社会教育委員の会議で相談させていただきました。

そのときに、たくさんある施策1つずつをやみくもに精査してもということで、計画の中にあります重点プロジェクト、こちらは当時の現状、平成26年度の数量と平成32年度の目標値を立てておりますので、そちらに書かれている重点プロジェクトの中の内容を評価したらいいのではないかとということをご意見いただきまして、昨年度初めて平成28年度の評価をさせていただきました。

今年度、2年目になりますけれども、平成29年度の評価をしてもらいました。こちらの評価の仕方については、前年度と同じ評価の仕方なんですけれども、それぞれの項目の中で評価の中にA、B、C、Dというアルファベットでの評価があります。そちらの評価表の3ページ目に評価方法

というのがありまして、まず評価のAというのは、計画に沿って事業を進め、平成32年度の目標を既に達成している場合はAという評価になります。Bの場合は、計画に沿って事業を進め、平成32年度の目標に到達してはいないが、平成26年度より数値が上昇している場合はB。そして、Cは、計画に沿って事業を進めているが、平成26年度の数値とほぼ同数である。Dは、計画に沿って事業を進めているが、平成26年度の数値よりも大幅に減少している、または、大きな課題等がある。それをDという評価をしております。

こちらのA、B、C、Dにつきましては、あくまでも平成26年度から平成32年度の目標値をそれぞれ参考にして、平成29年度どの数値だったかということをもとにA、B、C、Dの評価をさせていただいてまして、ただ、数値だけでははかれないところもあるかと思っておりますので、その部分は29年度の事業成果であったり、進捗状況、今後の展開等のところでそれぞれの担当者に書いてもらっております。

評価のまとめとしましては、A評価については全体の中の5事業、B評価については10事業、C評価については2事業、D評価については、3事業です。評価なしが2事業となっています。評価なしについては、年度ごとの評価が難しいということで、計画の最後に評価をすることにしております。

そして、ナンバー2の生涯学習支援事業数とナンバー4の子ども・若者対象事業数については、3つの課がまたがって、生涯学習課、図書館、公民館、3つの課を合わせた事業数で目標値をつくっておりますので、それぞれ3課で評価を行いまして、A、B、C、Dの最終的な評価は3課を合算したものでつくっております。

平成28年度、前年度からの比較をしますと、A評価は前年度も5事業、今年度も5事業ということで変わっておりません。B評価については8事業から10事業に増加しております。C評価については5事業から2事業に減少しておりまして、D評価については1事業から3事業に増加しています。

D評価がついたものについては、3事業あるんですけども、まず、ナンバー2の図書館における住民1人当たり図書館貸出冊数が、平成29年度は90万8,074冊となっております。平成28年度の95万1,838冊から4万3,764冊の減となっております。こちらの主な理由としては、本館の空調設備改修工事に伴い4カ月間臨時休業をしていたため、その影響が大きかったと考えられます。

また、ナンバー6の平和・人権に関する事業参加者数については、人権

啓発行事について実施内容の見直し等を行う必要があり、1つの事業の実施が見送られたため、参加者数が減となったということです。さらに、ナンバー9の出前講座につきましては、前年度に引き続きのD評価となりましたが、こちらの利用講座数は20講座から28講座に増加はしております。また、講座を利用された方のアンケートによると、おおむね好評をいただいているため、今後は広報の仕方を今よりもっと工夫していく必要があると考えております。

B評価、C評価の事業についてもそれぞれの担当課が中心となって、関係部署、関係機関と連携しながら課題、問題等の解決に努め、目標達成に向けて進めていきたいと思っております。

説明は以上です。

小山田議長 では、ご質問というか、ご意見というか、もしありましたら。では、福井委員、お願いします。

福井委員 福井です。

この書類は二、三日前に送ってきたものですから、一通り目を通しておきました。

それで、1ページは一読したんですけれども、すぐ理解できなくて、二、三度読んで後ろの対比を見てやっと理解できました。

1つ職員にお願いしたいんですけれども、例えば2ページ目の評価という表になっているんですけれども、できましたら、平成28年度対比という格好でわかるように、28年度の評価、それで、今回は29年度の評価のみで書かれています。というので、できたら、比較するためには2行必要だったかと思えます。

というのは、例えば1ページの真ん中で「平成28年度と比較すると、A評価は5事業で変わらず」ということで、平成28年度のA評価の内容と平成29年度のA評価の5事業を見ましたら、また中身が全く異なる項目もございまして、28年度はC評価もらっているのがA評価になっているのが1事業。また、同じく、A評価がB評価に29年度は格落ちしているけれども、プラスマイナス1で5事業で変わらずというような意味合いもあるということで、この2ページ目を理解するのは単純なんですけれども、できましたら、28年度、29年度対比でCからAに上がったという項目があれば、4ページ以降からそういう内容をまた個別に把握できるかという見方ができるのではないかと思ひまして、2ページの対比を、今後また5年計画でしたら5年対比の対表が記載されていれば理解しやすいかと思ひ

ます。

それと、あと、1点ずつ、28年度から29年度の対比を見ると、ここに記載されている評価の2ページ目のA、B、Cの評価と、記載されている4ページ以降の項目別のページごとに一通り見てチェックしましたら、1カ所だけ腑に落ちない数字の評価が出てきました。

2ページ目の4の子どもの居場所づくりということで、放課後子ども教室の開催回数、生涯学習課、Bということで、四、五枚めくったところの左上にナンバー4と書いてある、そのページがこの該当している2ページ目の4のBからDということで、これは問題ないんですけども、その次が問題がありまして、この2ページ目の4の子ども・若者対象事業数、生涯学習課、図書館、公民館で29年度はC評価になっています。具体的に七、八ページめくったナンバー4の右のページです。これが上に書いてあるとおり、生涯学習でA評価をいただいています。次のページに同じく図書館がB評価、その次は公民館でA評価になっています。AとBとAという評価で68事業に対して60事業開催しているということで、総合的に悪く見てもB評価以上の評価がということで確認はできているんですけども、2ページ目の評価が、残念ながらCという評価がつけられているところを逆にお聞きしたいと思います。

以上です。

小堀生涯学習係長 済みません。1点目の2ページ目の評価、今年度の分だけ載せているのではちょっとわかりづらいということでした。前年度は1年目だったので、こういう形でも問題なかったかと思うんですけども、おっしゃるとおりかと思しますので、記載方法を工夫させていただければと思います。

それと、ご指摘があった子どもの居場所づくりの放課後子ども教室の開催回数の右横から始まる子ども・若者対象事業数というものについて、どういう評価が正しいかというところもあるんですけども、一応計画の中では、子ども・若者対象事業数、平成26年度、現状が全体として62事業になっていまして、目標が68事業になっておりました。

それで、評価は全体でするのはなかなか難しく、それぞれの課で、生涯学習課、図書館、公民館で評価しているので、それぞれの課としてのA、B、C、Dはあるんですけども、子ども・若者対象事業数という大きい枠で見たときに、それぞれ3課の合計をすると、33事業、25事業、22事業ということで、計60事業になりまして、もともと計画全体での現状、26年度が62事業になっています。それで、平成29年度は合わせて60事業だったということで、平成26年度を下回ったということでC

評価にさせていただいています。

福井委員 私も公民館で評価を入れるのを三、四回出していますけれども、取り扱いがちょっと違うんじゃないですか。評価がA、B、Aだったら、最低でもBはつくと思うんですけど。

小堀生涯学習係長 それについては、もう一度精査させていただこうかと思います。

小山田議長 では、次回までに精査していただくということで、また、次の回のときにご回答をお願いします。

ほかにこちらの評価についてございますでしょうか。柴田委員。

柴田委員 2点質問があるんですが、この評価につきまして、例えばA評価は来年度も充実させていく事業だということで、例えば予算が前年度より多めについたりというような、予算編成のところには何か影響がありますでしょうかというのが質問の1点目です。

2点目ですが、事業成果と今後の展開というところの加減で、例えばD評価がついているナンバー9の学びを継承するための仕組みづくりの中の出前講座の利用講座数というところがありますけれども、こちらで申し込みの多い講座と少ない講座がはっきり分かれていますとありますが、例えばですが、こういうところがもう少し細かく、申し込みの多い講座はこういうもので、少ない講座はこういうもので、今後の展開のところで、申し込みの多い講座はこういう団体にアプローチしていくとか、少ない講座については具体的に方法を示していただいて、こういった団体に対してPRを進めていくというふうに、実現可能性というんですか、そういうものも含めて書いていただけると、読むほうとしてはありがたいかというふうに思いますがいかがでしょうか。

藤本生涯学習部長 では、1点目について、こちらは第3次の小金井市生涯学習推進計画に沿っていますので、当然予算措置というのはされていきますし、今後の取り組みについても方向性を示したものですので、ある程度の予算根拠には当然なるということです。その上で、いろいろな状況に応じて査定はしていくことになると思います。

小堀生涯学習係長 2点目についてですが、今の出前講座のところで、もう少し細かい分析というのは確かに必要かと思っておりますので、今後は、もっとわか

りやすいような形で記載していく必要があると思います。

小山田議長

ありがとうございました。

ほかに、では、よろしいでしょうか。

では、ないようでしたら、評価についてはこれで。福井さんの質問のことについて検討いただいて、次回、ご回答お願いいたします。

では、続きまして、4番の意見・提案シートについてということで、こちら事務局側の説明をお願いします。

小堀生涯学習係長 意見・提案シートについてですけれども、第2回の会議のときに話し合いをしていただいたのですが、そのときに、こちらに傍聴に来た方に書類を配ることについては、委員の皆さんにいいのではないかということでお答えをいただいたと思います。また、そのときに、もう少し幅広く、傍聴に来た方に限らず小金井市の社会教育について意見があった場合には、それをホームページ等に載せたらどうかということのご意見もいただきましたが、その話し合いの中で、ホームページがどれぐらい見られているのかということが話にありました。細かい部分で社会教育委員の会議の会議録がどれぐらい見られているかというところの確認は簡単にはできないということで、小金井市のホームページ全体のトップページのアクセス数としては、平成29年度が368万7,913件でした。

こちらを5年間振り返って確認してみたんですけれども、おおむね360万、370万、ちょっと下回って340万という年もあったんですけれども、例年それぐらいの数のトップページへのアクセスがあるということがわかりました。

あと、傍聴席に意見・提案シートを置いているかどうかであったり、ホームページでもっと幅広く声を聞いているかどうかということや、1年前なんですけれども、市の附属機関等で意見・提案シートを使っていますかという調査がありまして、それに回答したそれぞれの課に直接確認して、どのような形で意見・提案シートを配っているかということを確認した中では、ほとんどのところが傍聴に来た方に書いてもらうために書類を置いているということでした。1つの課だけ、もう少し幅広く、ホームページ上にその意見・提案シートを載せて、幅広く声を拾っています。ただ、実際にそれで出される意見というのはそんなに多くないということでした。

一応最後に企画部も確認したんですけれども、意見・提案シート自体は傍聴に来た方は基本的に意見等を言えない。そういう方が傍聴した中で何

か感じたこと、意見を言いたいということを紙に書いて出してもらおうということを中心にしていますということでしたので、こちらとしては意見・提案シートは傍聴席に備えるというところは2回前の会議で皆さんにご了承いただいたかと思いますが、ホームページに載せて幅広く声を聞きたいかどうかというところについては、今、調べたこととあわせて再度ご検討いただければと思います。

以上です。

小山田議長

ありがとうございます。

この意見・提案シートを傍聴の方にお配りするということはオーケーということで、その書かれたものについてホームページに掲載までするか、それはなしにして委員会の資料という形でとどめるかということになるかと思うんですけども、ご意見ございますか。

ホームページまで上げている課もあるが、それはほんとうに1つの課ぐらいということで、ほとんど皆さんは内部で共有しているだけということになります。ひとまずはどうでしょうか。福井さん。

福井委員

福井です。

意見・提案シートの取り扱いなんですけれども、やはり市民から幅広く意見を聞く。市民もなかなか行政に意見を言うチャンスも少ないということで、意見・提案シートを常設したらいいのではないかとということで、平成24年だと思えますけれども、野見山議長宛に提言された、総務委員会で継続審議という格好で、その後は私はフォローしていないんですけれども、総務委員会でも全ての、約50ぐらいの市議会で意見・提案シートを常設すればというようなところまで議題になっているというのは記憶しております。

その後、できましたらどういう扱いになったか。総務企画委員会の結果をお聞きしたいと思います。

それと、この意見・提案シート自体、ここの傍聴席に置くのもあるんですけども、出されたものを、提出日及び氏名が書かれた場合、この会議の中でどう取り扱うかというのはどうすべきかという部分は1つ大きな課題ではないかと思うんです。ただ意見としてあったということで、名前と提出日が書いてあれば、配付するというところまでは共通認識すべきだと思うんですけども、それをまた議題にして取り上げるかどうかというのは前生涯部長の西田さんに直接お聞きしたこの意見・提案シート、個人的には聞いているんですけども、配付はするんですけども、議長一任で議

題にするかどうかを決めてもらえばいいのではないかという見解は個人的にはいただいたという経緯はあります。

ですから、意見・提案シートをもしも出された場合の、後の扱いを今後、詰めていただければと思います。

以上です。

小山田議長　　今のご意見に対して何かございますか。書いていただいた後の取り扱いですけれども。では、原田委員、お願いします。

原田副議長　　傍聴の方は来ること自体、熱心だから来られると思うので、一生懸命会議の内容を聞いて、言いたいこと、聞きたいことがあると思うんです。多分紙に書かれることは単純な質問から非常に貴重な意見まで幅が広いと思うんです。

ですから、いずれにしても、ここに書いてあるように、社会教育委員の会議で資料として配付していただいて、内容を事務局のほうからかいつまんでご説明いただいて、その上で議論すべきものかどうかというのはこの場で議論してやればいいのではないか。どういうものが出てくるかわからないので、あまりルール化しないほうがいいのかと私は思います。

小山田議長　　ほかにご意見ないですか。石田委員。

石田委員　　石田です。

私は、この氏名と書いてあるが、傍聴した人は必ずしも書かなくてもいいのではないかと思うんです。それで、ここに公表する場合もそれは議長がわかっているならば、私たち全員には意見としてこういうものがありましたというだけで、この名前は伏せていただいていいと思うんです。そこまで私たちが知る必要はなくて、意見とか提案だけ知ればいいのではないかという気がします。

以上です。

小山田議長　　ありがとうございます。

さまざまな意見出ておりますけれども、こちらの委員会はわりと皆さん、顔が見えていて、よくご意見も交換したりして大体皆さん、例えばお名前を出しても、それは大丈夫だとは思いますが、ひとまずどういった意見が来るかもわからないですが、傍聴のほうにシートを置くということは置きまして、もし書いていただいたときに、資料として、例えば議長、

副議長あたりで一度見せていただいて、お名前も含めて、そのまま配付するか、また内容だけを皆さんにお伝えするかというのは、議長、副議長にひとまず一任させていただくという方向でよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

小山田議長

ありがとうございます。

ホームページはしばらく掲載しないということで、どんなふうに来るかというのは全くわからないので、とりあえず、では、議長、副議長に一任させていただくということでよろしく願いいたします。ありがとうございます。

それでは、その他になりますが、議題でその他何かございますか。

特にないようでしたら、では、報告事項ということで、報告事項1番、平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会についてということで、事務局のほうからお願いいたします。

小堀生涯学習係長 報告1の平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会について、こちらは事務局のほうで出席いたしました。

そのときに出た意見として、各ブロックごとの研修について、自分が所属していないブロックの研修であっても、関心がある研修であれば、ぜひ参加してもらいたい。そのため、各ブロックの幹事市は、席等の問題もあるかと思しますので、可能な限り29市町にも開催案内を出してほしいということが理事会で話し合われました。

続いて、報告2のところ、小金井市は第5ブロックに所属しているんですけども、平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3ブロック研修会の案内についてということで、1番で説明したところでしたけれども、他ブロックから開催案内が届きましたので、そちらを配付させていただいております。

内容を見ていただきまして、一応市としてまとめて申し込みをするような形になりますので、もし今、見ていただいて、出席したいというご希望があれば、後ほど声をかけていただくか、あと、今日は難しいけれども、予定を確認して出席したいということがありましたら、9月7日が研修の締め切りですので、前日の6日木曜日までに事務局までご連絡いただければと思います。

以上です。

小山田議長

ありがとうございました。

これで1番、2番が済んだということになりまして、では、もしご希望の方がいらっしゃいましたら、第3ブロックの研修会、9月6日までに事務局のほうにお申し込みください。

では、続きまして、3番、小金井市立図書館運営方針（改訂版）（案）についてということで、図書館長からお願いいたします。

菊池図書館長

図書館長です。それでは、ご説明させていただきます。

今年の4月の社会教育委員の会議で、図書館協議会から答申をいただいたことによって、今後の本市の図書館の進むべき方向性については、まずは中期的な考え方をお示ししてまいりたいとご報告させていただいたところです。

その後、内部で検討を重ねてまいりまして、今、あります小金井市立図書館運営方針に、上位計画にあわせた形で平成32年度までの取り組みや図書館の施設、機能、運営形態についての考え方を含めた内容を改訂することといたしました。

改訂案を作成するに際しましては、6月、7月の図書館協議会でご意見を伺い、また、関係部署とも調整を図りながら進めてまいりました。

本日、配付させていただきましたのがその改訂案でして、小金井市立図書館（改訂版）（案）となっております。目次に沿って少し説明をさせていただきます。

1枚おめくりいただきまして目次ですけれども、これは1章から6章までになっておりまして、第1章は運営方針の改訂にあたってとしまして、改訂に至る背景ですとか、目的等を記載しております。第2章では、小金井市立図書館の現状として、現状及び課題を整理して載せてございます。第3章の図書館サービス基本方針は、今の運営方針の名称を変更しまして、ここに含めております。この内容につきましては、今回の改訂では全体の構成とあわせて文言等を整えるにとどまっております。内容については変更しておりません。続いて、第4章の図書館サービスの向上を目指して（平成30～平成32年度の取組）は、第3章の基本方針に沿って、この期間での検討、取り組みを進めていく事業となっております。第5章は今後の図書館施設の考え方。第6章は、将来本館にかわる施設の検討に着手する時期が来たときのために現段階での（仮称）中央図書館についての考え方をまとめています。

この改訂案は、8月23日の教育委員会でお示しし、ご協議をいただきました後、昨日の8月28日から9月28日まで市民参加条例第15条の

規定に基づいて市民のご意見をいただくためにパブリックコメントを実施しております。また、パブリックコメントの期間中の9月8日土曜日には、図書館本館にて市民説明会を開催させていただきます。

改訂版の完成時期につきましては、9月末ごろと当初お話しさせていただきましたが、10月から11月ごろの完成予定というふうに、今のところそのような予定でございます。

説明は以上です。

小山田議長

ありがとうございました。

何かご質問等ございますでしょうか。石田委員、何かありますか。

石田委員

とても見やすくなっていると思います、ご苦労さまでございます。

小山田議長

ありがとうございました。

では、また皆さんもごらんいただきまして、何かご意見あれば、また会議で伺います。

石田委員

済みません。パブリックコメントの内容は見られないんですよね、まともならなければ。

菊池図書館長

そうです。結果ですね。

石田委員

そうですね。途中は無理だったんですよね。図書館協議会では、一応各委員がいろいろ文言とか、ここは要らないとか、要るとか、いろいろ言いながら、例えば22ページの「坂下地域」「梶野地域」という、「坂下地域」という「地域」という言葉はちょっと差別ではないかとか、そういうことまでちょっと気を使いながらいろいろ意見を出し合いました。

図書館はちょっと集まる日数が少ないので、とても貴重なあれでした。

小山田議長

ありがとうございます。ご苦労さまでございました。

では、またお読みいただきまして、確認をとということでもあれば、ご意見あれば、出していただければと思います。ありがとうございます。

それでは、報告事項のその他ということで何かございますでしょうか。

藤本生涯学習部長

よろしいでしょうか。1件、オリンピック・パラリンピック兼スポーツ振興担当のほうから口頭で報告させていただきます。

内田担当課長　　今月の9日なんですけれども、オリンピックの準備局のほうから発表されてまして、自転車のロードレースが武蔵野の森公園を出発いたしまして、2020年7月25日ですが、これが男子、26日、女子なんですけれども、東八道路を東から入りまして、小金井市内に入ってきてまして、前原の交番前を左折いたしまして、南に通り抜けて、その後、静岡県にある富士スピードウェイをゴールにするといったことで、小金井市内を通過することが決定いたしました。

あと、男子のほうが大体240キロ、女子が180キロか何かだと思っ
たんですけども、それだけの距離を走り抜けます。

全種目そうらしいのですが、1年前にテストイベントというのをやる
そうなんですけれども、こちらに関してはまだコースが発表になっており
ません。

それに関連して、当日、市長のほうで、通過する8市、東京都では8市
あるんですけども、共同声明という形でそちらに関して出させていただきます
予定であります。

以上になります。

小山田議長　　ありがとうございました。

藤本生涯学習部長　補足で。わかりづらいと思うんですが、味の素スタジオがござい
ます。

その隣にできたのが武蔵野の森というところになりますので、そちらをス
タートして、東八道路のほうに逆にちょっと戻るような形で行って、試験
場の前だとか、その辺を通過して、小金井街道を今度は左に曲がって南に抜
けていくということです。府中市を通ったり、多摩市を通ったりとかしな
がら、神奈川県の方まで抜けるということになります。

それで、ちなみに本番当日の最初の10キロまでは。オープニングラン
みたいな形のもので、結局競技としては多摩川を越えてからみんなスピー
ドを上げていく競技になるんですけど、そこまではパレードみたいな感
じというか、比較的ゆっくり走ってくれるコースになりますので、ぜひそ
ういう競技の醍醐味というか、全部で130台といったか。男子が100。
自転車も結構な台数がありますので、それを見てお楽しみいただければと
いうように思います。

あとは、当日予想されるのは、ボランティアさんで、やはり道の関係と
かその辺のところの協力をいろいろいただいていくような形になりますし、
市民の方にも参加していただきたいというようなことで考えています。

以上です。

小山田議長 ありがとうございました。それでは、あと、小堀さん、10月以降の本委員会のことなんですけれども。

小堀生涯学習係長 10月以降の会議の日程はまだ決まっておりませんで、皆さんの曜日等のご都合を伺った上で会議室を探したいと思っています。ちなみに、10月27日は府中の第5ブロックがあります。

小山田議長 それでは、また日程のほうは決まり次第、メール等でご連絡させていただくということで、次回は科学の祭典でお会いできる方は科学の祭典ということで、その後は10月になりますので、またよろしく申し上げます。
では、以上で本日の委員会は終了いたします。ありがとうございました。